

第5章 集計データの統計学的処理による考察

この章では、第3章において各論文から抜き出された「観光論」が、「環境の概念」とどのように関わっているのかを把握する。そのために、まず数量化 類によって、それぞれの「環境の概念」の関係を定置する。また、定置された「環境の概念」関係をクラスター分析による類型化を行うことで、「観光論」における「環境の概念」をカテゴリ化する。さらに、カテゴリの傾向の把握と所属する論文の年度別変遷より、「観光論」の変遷を把握する。

5-1 数量化 類による「観光論」における「環境の概念」の定置

5-1-1 数量化 類

数量化 類は質的データのパターンを分類する手法であり、この分析には「エクセル統計 2000」を用いた。その理由は、分析対象である論文のグループ分けを「環境の概念」の項目という質的データによっておこなうためである。

このさい、「環境の概念」の全項目ではなく記述個数の上位12項目によって数量化 類をおこなった。記述個数の上位12項目に限定したのは、全項目で数量化 類をおこなっても、3軸の累積寄与率が20%(APPENDEX 参照)と低いためである。そこで、46項目における最大記述個数は「情報・広報」の項目で88個、同様に最小頻出回数は4個であることから、中間の記述個数が46個以上の上位11項目を基本とした。

ここで、なるべく多くの項目を取り入れたかったため、記述個数が45個の「体験・経験」の項目を加えた12項目でも数量化 類をおこなった。その結果、「体験・経験」の項目を加えた上位12項目の場合では、下表のように、上位11項目の場合と相関係数、累積寄与率ともに、大きな差が見られないと判断した。したがって、45回以上の項目を含めた上位12項目で数量化 類をおこなった。

表 5.1 記述個数の上位項目と下位項目

項目名	記述個数
情報・広報	88
産業	80
歴史・文化	79
サービス	71
開発	69
志向・欲求	63
行政	53
消費	50
価値観	49
生活の規範・習慣	49
政策	47
体験・経験	45
・	・
・	・
・	・
エネルギー・廃棄物	10
安定性	10
自立性	10
税金	10
多様性	8
閉塞性	8
リサイクル	6
有限性	6
節欲性	4

表 5.2 上位12項目による数量化 類の結果

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.3455	16.78%	16.78%	0.5878
第2軸	0.2883	14.00%	30.78%	0.5369
第3軸	0.2268	11.01%	41.79%	0.4762

5-1-2 数量化 類の分析結果

上位12項目による数量化 類の結果から1-3軸におけるサンプル得点の散布図は以下のよう
に得られた。

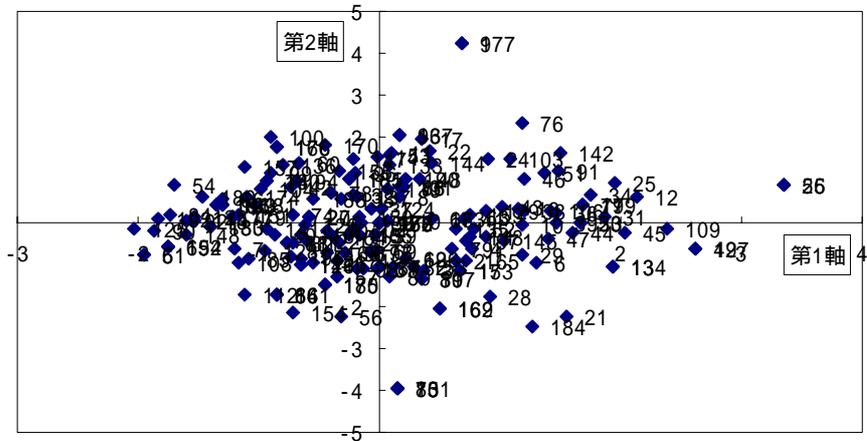


図 5.1 上位12項目による数量化 類の1軸
2軸によるサンプル得点散布図

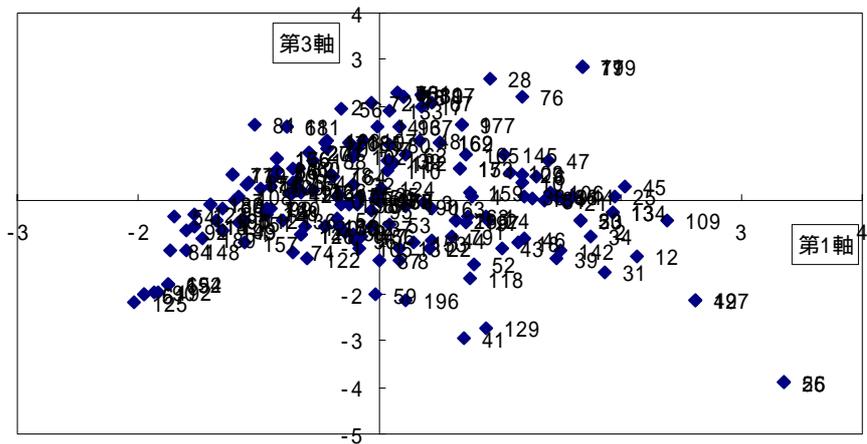


図 5.2 上位12項目による数量化 類の1軸
3軸によるサンプル得点散布図

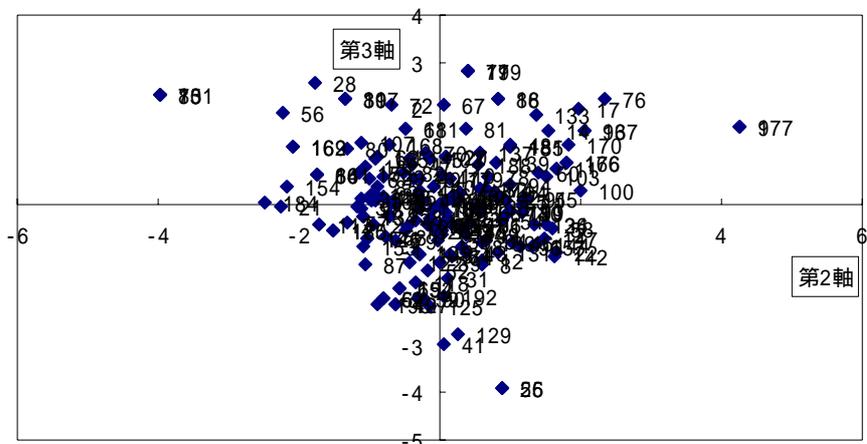


図 5.3 上位12項目による数量化 類の2軸
3軸によるサンプル得点散布図

5-1-3 軸の解釈

次に、上位 12 項目による数量化 類の結果から、 軸におけるカテゴリのスコアは以下のようになった。これをもとに、各軸の解釈をおこなう。

表 5.3 上位12項目による数量化 類の1軸におけるカテゴリスコア

カテゴリ	第1軸
生活の規範・習慣	1.9649
価値観	1.4060
体験・経験	1.2442
歴史・文化	0.9880
政策	0.4027
志向・欲求	0.0838
行政	-0.2353
情報・広報	-0.4532
開発	-0.7589
サービス	-0.9189
産業	-1.1440
消費	-1.2387

表 5.4 上位12項目による数量化 類の2軸におけるカテゴリスコア

カテゴリ	第2軸
政策	2.2842
行政	1.2486
開発	0.6798
生活の規範・習慣	0.4777
消費	0.2704
歴史・文化	0.2219
サービス	-0.1993
情報・広報	-0.2673
産業	-0.4255
価値観	-0.5262
体験・経験	-0.9595
志向・欲求	-2.1304

表 5.5 上位12項目による数量化 類の3軸におけるカテゴリスコア

カテゴリ	第3軸
歴史・文化	1.3483
志向・欲求	1.1009
政策	0.7701
開発	0.7620
情報・広報	0.7548
行政	0.0888
体験・経験	-0.1152
サービス	-0.7600
産業	-0.9553
価値観	-1.0859
消費	-1.1149
生活の規範・習慣	-1.8625

(1) 第1軸

第 1 軸は、上位の項目に「生活の規範・習慣」、「価値観」、「体験・経験」、「歴史・文化」とあり、下位の項目は「消費」、「産業」、「サービス」となっている。下位項目は、観光における経済活動と捉える。これに対して、上位項目は、観光化される文化とみなす。したがって、これらをまとめると、商品化される文化とその代価としての経済活動とすることができる。したがって、この軸は、「文化の商品化と経済活動」と解釈した。

(2) 第2軸

第 2 軸は、上位の項目に「政策」、「行政」、「開発」とあり、下位の項目は「志向・欲求」、「体験・経験」、「価値観」となっている。下位項目は、個人の行動に影響を与える項目とみなす。他方、上位項目は、地域の人間の総意として、「公共性」を持った項目とする。したがって、この軸は、「Public - Personal」と解釈した。

(3) 第3軸

第 3 軸は、「歴史・文化」、「志向・欲求」、「政策」、「開発」、「情報・広報」が上位の項目にあり、下位の項目には「生活の規範・習慣」、「消費」、「価値観」、「産業」、「サービス」がある。上位項目では、観光地におけるホストがゲストの観光活動を促進するものである。他方、下位項目は「価値観」、「生活の規範・習慣」が、観光行動の基準であるのに対して、「消費」、「産業」、「サービス」は、ゲストの観光行動を支える基盤とみなす。これをまとめると、ゲストによる観光行動の選好とすることができる。それに対して、上位項目はゲストの「志向・欲求」を把握することで、「歴史・文化」、「政策」、「開発」といった、ホストによる観光対象や資源の創出や、観光活動の支援がなされる。また、「情報・広報」から、これを情報として広めることによって、ゲストを誘致すると考える。したがって、この軸

は、ゲスト - ホスト間の「接遇」と解釈できる。

5-2 「観光論」における「環境の概念」の類型化

前節では、数量化 類によって「観光論」における「環境の概念」を定置した。つぎに、「観光論」の類型化をおこなう。そこで、数量化 類による結果から、10 軸まで用いてそのサンプル得点によるクラスター分析をおこなう。

表 5.6 数量化 類における10軸までの分析結果

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.3455	16.78%	16.78%	0.5878
第2軸	0.2883	14.00%	30.78%	0.5369
第3軸	0.2268	11.01%	41.79%	0.4762
第4軸	0.1888	9.17%	50.96%	0.4345
第5軸	0.1766	8.58%	59.54%	0.4203
第6軸	0.1639	7.96%	67.50%	0.4049
第7軸	0.1561	7.58%	75.08%	0.3951
第8軸	0.1470	7.14%	82.22%	0.3835
第9軸	0.1408	6.84%	89.06%	0.3752
第10軸	0.1199	5.82%	94.88%	0.3462

なお、この分析には「SPSS 10.0」 for Windows」をもちいた。分析にさいして、固体と固体の類似度を表すためには ward 法、クラスター間の距離を決める方法として平均ユークリッド距離を採用した。このクラスター分析によって得られたデンドログラムにおいて等しい類似度で区切り、カテゴリ化した。この際、クラスターを9に分類したが、その所属する論文数から、実質的には5つに分類される。したがって、この5つのクラスター以外は、「その他」としてまとめ、分析の対象から除外した。

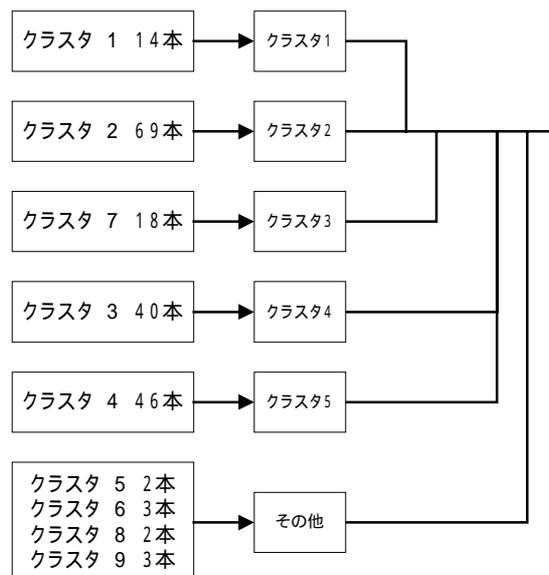


図 5.4 デンドログラム

また、この5つのクラスターを、数量化 類によるサンプル得点の散布図をもとに、これらの所属する論文ごとに分類した。3軸平面における散布状況の結果は以下のとおりである。

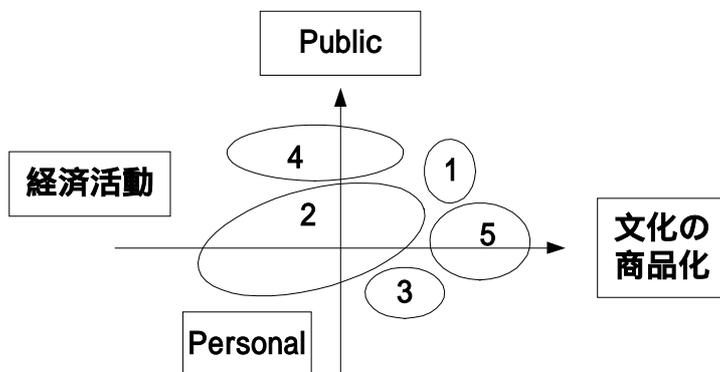


図 5.5 サンプル得点散布図の1 - 2軸におけるクラスター分布

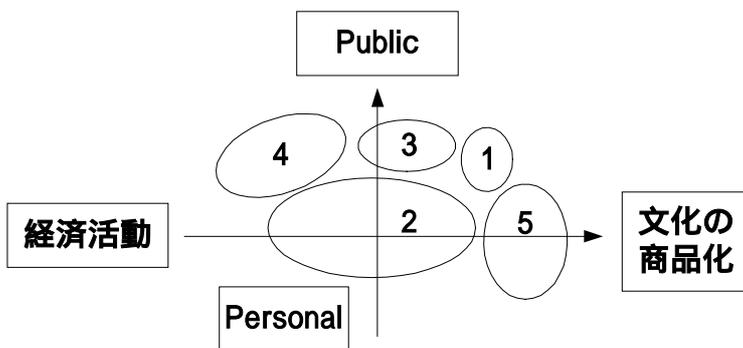


図 5.6 サンプル得点散布図の1 - 3軸におけるクラスター分布

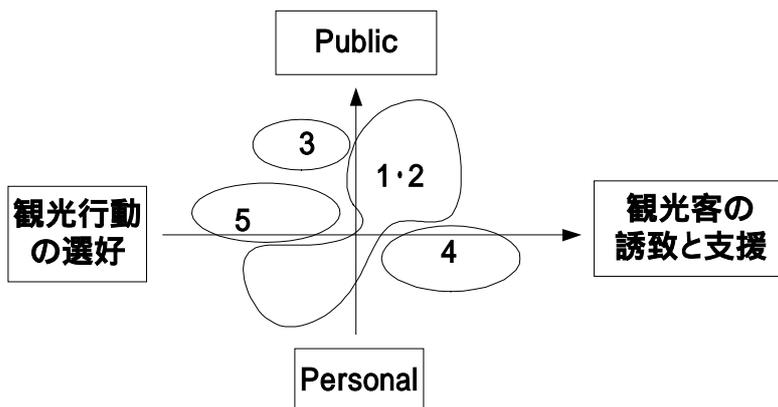


図 5.7 サンプル得点散布図の2 - 3軸におけるクラスター分布

5-3 「観光論」の「環境の概念」による類型に関する考察

この節では、クラスター分析によって類型化された5つのクラスターのうち、所属する論文で、特徴的なものをあげる。さらに、数量化 類に用いた12項目に関する考察をおこなうことで、各カテゴリの

傾向を把握し、解釈をおこなう。(以下では、論文番号「タイトル」の表記をする。各カテゴリに所属する論文の詳細は APPENDIX 参照。)

5-3-1 各クラスタに所属する論文の傾向

この節では、各クラスタに所属する論文の傾向をあげる。

(1) クラスタ 1

クラスタ 1 には、14 本の論文が所属する。このクラスタにおいて、特徴的な論文としては、1「オーストラリア・アボリジニと文化観光」、「アメリカ・インディアンの霊性への旅」、「蘭嶼ヤミ族と観光」といった観光や観光地の民族性に関する論文が挙げられる。

(2) クラスタ 2

クラスタ 2 には、69 本の論文が所属する。このクラスタにおいて、特徴的な論文としては、4「Tourism Studies の規範化に関する研究」、154「『観光学』を求めて」や 8「日本の山村におけるグリーンツーリズム」、61「エコツーリズム」、88「エコツーリズムと地域振興」、152「都市 - 農村交流によるグリーン・ツーリズムの成立について」、174「エコミュージアムの事業手法化に関する研究」などの観光原論とその周辺としての観光体系と地域の関係に関する論文がみられる。

また、2「ペルーのエソテリック・ツアーにおけるオーセンシティと文化的リアリティ」、5「観光がアジアの女性に与えたインパクト」、40「張家界の観光開発と社会効果」、92「新冶村の観光発展過程と観光地形成」、94「『神戸南京町』の再構築と観光」、167「韓国東萊温泉の発達過程に関する研究」など、地域における観光の開発とその効果に関する論文がみられた。

このクラスタは、論文数が最も多く、原論およびその周辺の論文がみられることから、中心的なクラスタであるといえる。

(3) クラスタ 3

クラスタ 3 には、18 本の論文が所属する。このクラスタにおいて、特徴的な論文としては、20「菊人形の興行化と展開」、27「場所の神話化」、72「境の空間を創造すること」、107「観光における“異文化理解”と文化仲介者に関する研究」、111「観光地イメージに対する旅行関与と他者意見の影響」、117「現代小説から模索する新しい旅」、161「岡山県日生長頭島における民宿の展開過程」が挙げられる。

(4) クラスタ 4

クラスタ 4 には、40 本の論文が所属する。このクラスタにおいて、特徴的な論文としては、42「中国における雑技芸術と観光開発に関する研究」、84「観光関連施設の需要に関する分析」、131「国内観光空洞化とその活性化」、141「激変した香港への旅行需要とその背景」、175「我が国におけるリゾート需要の現状とその将来動向」が挙げられる。

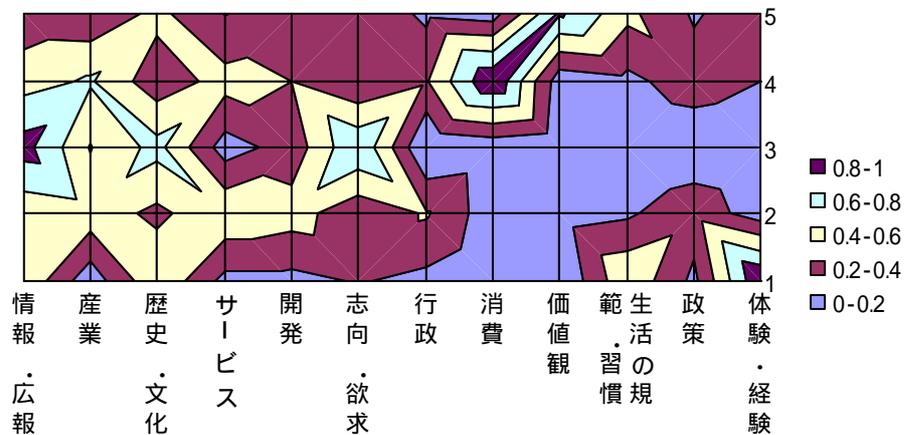
(5) クラスタ 5

クラスタ 5 には、46 本の論文が所属する。このクラスタにおいて、特徴的な論文としては、3「耳の旅の経験」、12「旅の寝暮らし」、63「バックパッカーの観光学」、79「生涯健康と余暇活動」、145「外国人旅行者の誘致の問題点」、184「芭蕉の旅に見る観光リゾートの風景」が挙げられる。

5-3-2 数量化 類でもちいた 12 項目とクラスタの考察と解釈

ここでは、数量化 類においてもちいた 12 項目の記述個数を、各クラスタの所属論文によって割った使用頻度をもちいて考察をおこなう。前項における各クラスタの特徴的な論文およびこれらの結果を踏まえて、クラスタを解釈した。

表 5.7 上位12項目とクラスタにおける記述個数/論文数の割合



(1) クラスタ 1

クラスタ 1 においては、体験・経験の割合が高いが、消費や価値観、開発、サービス、産業といった割合が低い。したがって、前項の特徴的な論文を踏まえると、このクラスタは、観光地の民族性に関するものであると解釈することができる。

(2) クラスタ 2

クラスタ 2 においては、体験・経験、価値観、消費についての割合が低い。また、割合が高い項目は見られない。したがって、前項の特徴的な論文を踏まえると、このクラスタは、観光地の地域性に関するものであると解釈することができる。

(3) カテゴリ 3

クラスタ 3 においては、志向・欲求、歴史・文化、情報・広報に関する割合が高い。しかし、その他の項目は、全体的に割合が低いといえる。したがって、前項の特徴的な論文を踏まえると、このクラスタは、ホストとしての観光地の地域住民とゲストとしての観光客の交流に関するものであると解釈することができる。

(4) クラスタ 4

クラスタ4においては、消費や、産業といった項目が高いといえる。他方、価値観、生活の規範・習慣といった項目の割合が低い。したがって、前項の特徴的な論文を踏まえると、このクラスタは、資源としての観光開発に関するものであると解釈することができる。

(5) クラスタ 5

クラスタ5においては、価値観に関する割合が高いといえる。他方、消費、政策、行政は割合が低い。したがって、前項の特徴的な論文を踏まえると、このクラスタは、観光の需要と供給に関するものであると解釈することができる。

5-4 観光論の変遷

5-4-1 論文の変遷とその区分

ここまで、数量化 類によって定置した「環境の概念」の関係を、クラスター分析によって類型化した。本節では、類型化された「観光論」における「環境の概念」が、どのように変遷してきたのかについて考察する。

年代区分は、4 章で、観光の論文集の発行年によって、年代を 1987 年-1993 年、1994 年-1997 年、1998-2001 年の3区分を用いた。また、数量化 類によって得られた、各論文のサンプル得点の散布図をもとに、それぞれの論文が各区分によって、どのように変化しているのかを以下の表にまとめた。

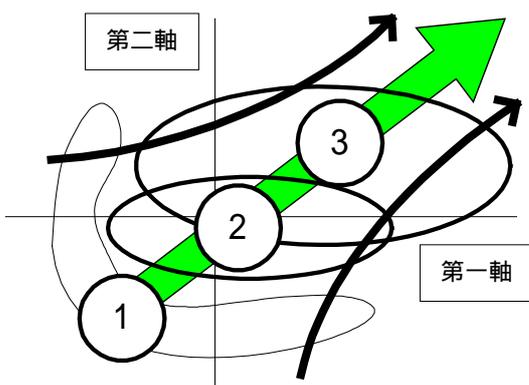


図 5.8 1-2軸のサンプル得点分布図における年代の三区分による論文の変遷図

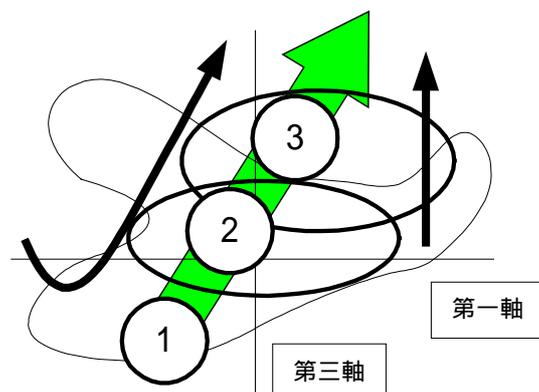


図 5.9 1-3軸のサンプル得点分布図における年代の三区分による論文の変遷図

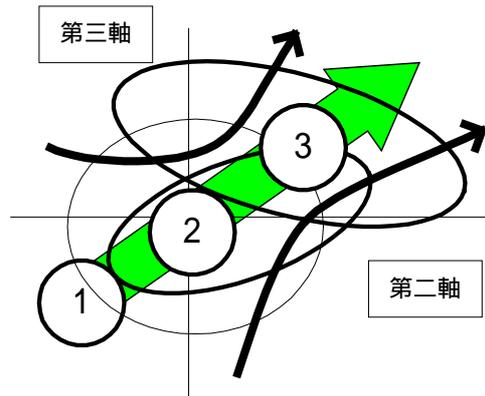


図 5.10 2-3軸のサンプル得点分布図における年代の三区分別による論文の変遷図

以上の図より、1-2軸、1-3軸、2-3軸の各軸比較において、第1期から第3期に時間が経過するにしたがって、第3象限から第1象限に向かう傾向が得られた。この結果を踏まえて、以下では、各軸による考察、クラスター分析で分類されたクラスターによる考察をおこなう。

5-4-2 軸による考察

上記の数値化 類によるサンプル得点の散布図における各軸の解釈は、第1軸が「文化の商品化と経済活動」であり、第2軸が「Public-Personal」であり、第3軸が「接遇」である。これを観光論の変遷としてまとめると、観光論は「経済活動」、「個人」、「観光客の選好」から、「商品化される文化」、「公共性」、「観光客の誘致とその支援」に移行している。

5-4-3 クラスターによる考察

クラスターにおける変遷をまとめるために、各クラスターのデンドログラムの傾向をつかみ、それを踏まえた上で、論文の変遷図とクラスターの散布図を比較することで、以下のようにまとめた。

まず、デンドログラムより所属する論文数の数、その性質から観光地の地域性のクラスターが中心であることは明らかである。これに観光開発と観光の需要と供給といったクラスターが副次的に存在している。さらに、交流、観光地の民族性というクラスターは、観光地の地域性との親近性も高く、補足する意味合いを持っているといえる。

これらのことを踏まえて論文の変遷図と比較することで、変遷をまとめる。中心といえる観光地の地域性が、観光開発や観光の需要と供給といった副次的なものを取り込んだ。その後、交流や観光地の民族性を吸収している。これをまとめると、以下の図のようになるといえる。

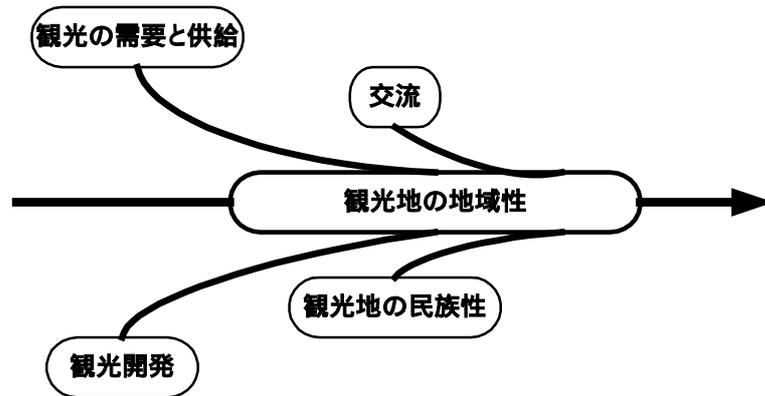


図 5.11 クラスタの変遷図

5-5 本章のまとめ

まず、記述個数の上位 12 項目による数量化 類の結果より、観光論における環境の概念は、「文化の商品化と経済活動」、「Public - Personal」、「接遇」の 3 つの関係に定置することができた。さらに、クラスター分析によって、「観光地の民族性」、「観光地の地域性」、「交流」、「観光開発」、「観光の需要と供給」という 5 つの主要なクラスタに分類された。

観光論の変遷に関して、四章における年代の 3 区分をもちいて次のようにまとめた。まず、軸との比較によって、「経済活動」、「個人」、「観光客の選好」から、「商品化される文化」、「公共性」、「観光客の誘致とその支援」に移行している。さらに、クラスタとの比較によって、中心となる観光地の地域性に観光開発や観光の需要と供給といった副次的なものを、観光地の地域性に取り込み、その後、交流や観光地の民族性を吸収しているといえる。